

神経系疾患分野

正常圧水頭症

1. 概要

何らかの原因で髄液の循環不全が生じ、その結果脳室は拡大し正常圧水頭症が発症する。患者は、精神活動の低下（認知症様の症状）、歩行障害、尿失禁の三つの主症状を呈する。原因不明のものを特発性正常圧水頭症、原因が明らかなものを続発性正常圧水頭症と呼ぶ。

2. 疫学

特発性正常圧水頭症の正確な発生頻度は、明らかでない。一般的に、65歳以上の高齢者において、認知症と診断された患者の5～10%が特発性正常圧水頭症であると考えられている。特発性正常圧水頭症の好発年齢は60歳以降であり、発生頻度に男女差はないとされている。

3. 原因

続発性正常圧水頭症の原因としては、くも膜下出血、頭部外傷、髄膜炎などがあげられる。特発性正常圧水頭症では、最初に何らかの理由で極軽度のくも膜炎が起こり、それに続発するくも膜の癒着や肥厚さらには線維化が髄液循環障害を惹起し、水頭症が発生するものと考えられているが、その真の原因は不明である。

4. 症状

精神活動の低下（認知症様の症状）、歩行障害、尿失禁の三つが主症状（三徴候）である。初期の段階では物忘れ、次いで自発性の低下、無関心、日常動作の緩慢化などがみられ、さらに進行すると無言無動といった状態になる。

5. 合併症

歩行障害にともなう転倒（外傷）や、進行例では長期臥床にともなう呼吸器感染症などが問題となる。

6. 治療法

脳室腹腔短絡術、腰部くも膜下腔腹腔短絡術などの髄液シャント術が治療法になる。

7. 研究班

正常圧水頭症の病因・病態と診断・治療に関する研究